



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



記念祭の意義と鹿兒島の役割を学ぼう

ザビエル上陸記念祭実行委員会

今年のザビエル上陸記念祭の準備を進めている「ザビエル上陸記念祭実行委員会」では、記念祭への参加を呼びかけるとともに、記念祭開催の意義を聖師の上陸地である鹿兒島の教会の責任とともに再確認するため、「ザビエル上陸記念祭の目的」(教区報二〇〇二年七月号「視点」)の再読を訴えている。以下、視点によるザビエル上陸記念祭の目的。

一九九九年「ザビエル来四〇〇周年」を記念した鹿兒島教区は、その後も毎年八月十五日に「ザビエル上陸記念祭」を実行してきており、今年もその日が近づいてきた。

ザビエル上陸記念祭の主たる目的は三つある。

一つは、命をかけてわが国に「キリストの福音」を伝えた聖フランシスコ・ザビエルとその一行の鹿兒島上陸を記念することである。この記念は上陸地となつた鹿兒島教区の責任であるとも考えられ、早くから「教区主催」で行われてきた。換言すれば、鹿兒島教区が全国の教会を代表して「キリスト教伝来」を行動で記念するのである。

二つ目の目的は、ザビエル上陸記念祭を教区ぐるみの宣教行事とすることである。ザビエル渡来四〇〇年祭は鹿兒島の人々の前に大きなイベントとなつてその関心を高めたが、人間の記憶や関心はすぐに消え去るものであり、せつかくの記

念行事の盛り上がりもすでに過去のものとなつて忘れられようとしている。だから、毎年のザビエル上陸記念祭を市民・県民の関心をよみがえらせ、ザビエルがもたらしたメッセージを新たに記憶させる機会としたのである。ザビエル上陸記念祭は個人的な趣味でもなく信心でもなく、宣教を目的とする教区ぐるみの組織的な行動であると理解されなければならない。

第三の目的は、ザビエル上陸記念祭をもって「カトリック平和旬間」の締めくくりに行事とすることである。カトリック平和運動の基本は福音宣教自体であるから、キリスト教伝来の記念はカトリック平和運動の日本における開始を記念することにもなる。

今年の活動方針は「結 まある」

奄美カトリック女性連盟が総会

奄美カトリック女性連盟は「奄美におけるカトリックの女性がキリストの共同

体としての相互の交わりを深め、各教会と地域社会における使徒職活動に寄与す

以上の三つの主たる目的を持つ教区行事としてのザビエル上陸記念祭には、全小教区が何らかの形で参加しなければならぬ。参加方法の一つは祈りであるが、すでに「聖フランシスコ・ザビエルを記念する祈り」がすべての小教区に配られている。

八月六日〜15日はカトリック平和旬間
十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と定めました。
「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

2014年ザビエル上陸記念祭
8月15日(金)
ザビエル記念聖堂

11時50分
①平和の鐘を鳴らそう
・意義説明 田中弘允鹿兒島ユネスコ協会長
・打鐘

12時30分
②ザビエル上陸記念ミサ
・ザビエル崇拜
・聖母被昇天ミサ

14時
③茶話会
※ザビエルウォークは実施いたしません。



生き生きと講話するSr.南谷

六月八日(聖霊降臨の祭日)に瀬留教会(タム神父主任司祭)で、奄美カトリック女性連盟の第三十六回総会を開催しました。総会には百五十人の出席があり、午前は「日本カトリック女性団体連盟」と連動している「いのちを守る運動基金」から、奄美市の青少年サポートセンタ

ベネディクトさん助祭に叙階
8月31日韓国大田教区徳山聖堂で
教区がその受け入れを検討し、このほど正式に鹿兒島教区の神学生となつた韓国人ベネディクト朴鎮亮(パク・ジンヤン 四十三歳)さんは、八月三十一日(日)、故郷・大田教区の徳山聖堂で助祭の聖位に挙げられることとなつた。午前十時三十分から始まる神学生の叙階式には、郡山司教もその司式に加わりますが、司教は一人でも多く鹿兒島の信徒が叙階式に参列するよう願っている。

「ことを基本理念に掲げています。そして今年度のテーマは「結 まある」傷ついた者の痛みと共に」です。弱者に寄り添い、手と手を取り助け合つて行ける共同体であるようにとの願いからです。

青年ミサに参列を九州青年キャンプ
八月二十三日(土)と二十四日(日)、出水教会で開催される「九州青年キャンプ鹿兒島大会」を準備している教区の青年会は、二十四日にささげられるミサ(郡山司教司式)に多くの

谷豊子園長(シヨファイユの幼きイエズス会)の「もつれをほく」と題した講演がありました。講師は「二人ひとりの心のもつれ、他人のもつれ、神さまのもつれ、これらを自分で謙虚に受け止め、許し、許され、神さまに目を向けて祈り、助けを求め、導いてもらうように」と。また「背筋をしゃんと伸ばし、明るい服を着て、二十歳くらい若返るように毎日を元気に、人々と交流しながら信仰生活を証して欲しい」とときにユーモアを交えながら話してくれました。

(報告・永田喜美代)

大槌ベース滞在記 ただ共に過ごしたくて！

谷山教会 岩崎 正幸

お世話になった東北へ

三月十二日から二十日までの九日間、カリタス大槌ベースに滞在し、ボランティア活動をする機会に恵まれました。大震災から三年、学生時代、東北地方でお世話になっていながら、今まで何もできずに後ろめたい気持ちでいっぱいでした。このたび、ようやくまとまった休みを取ることができ、「鹿兒島から川口助祭が派遣されているのも三月末まで」ということもあって、この期間の滞在となりました。

被災地での活動

十四日からボランティア活動に入りました。現在、大槌ベースでは直接の復興作業はなく、仮設の集会所を訪問したり、子どもセンターでの見守り、町内のプロジェクトのお手伝いなどを行っています。十四日は六人のボランティアが二手に分かれ、一方は仮設集会所での健康麻將(マーじゃん)に参加しました。これは仮

設で暮らす年配の方々の対象に、いわば頭の体操をする機会。指導員さんや支援員さんとともに、仮設の方々と卓を囲んだのでした。午後は子どもセンターで元気な小学生たちの放課後の相手。積み木で遊んだり、卓球をしたりで、あつという間に時間は過ぎて行きました。活動の後はベースに戻り、一人ひとりがその活動を報告するのと同時に、感じたことなどを分かち合う時間を取ります。そして、その後みんな夕食。調理や片付けを役割分担します。その後は自由時間。日によっては、皆でテレビを見る時間にもなっています。

朝は六時頃起床。七時から原則として毎朝、川口助祭による「み言葉の祭儀」

があります。九時にスタッフとボランティアでミーティングを行い、その日の行動を確認します。土曜日と日曜日は仮設への訪問や子どもセンターでの見守りはないので、十五日と十六日は「菜の花プロジェクト」のお手伝いをしました。これは、津波被害のあった大槌川沿岸を菜の花でいっぱいしようというプロジェクト。海水に浸ってしまった



ボランティアの皆さんと(二列目右端が筆者)

た桜やクルミの木は枯れてしまったため、それらの木を切り倒し、そこを菜の花畑にしようという計画です。とても時間と手間のかかる計画ですが、少しでもお手伝いできたのは、ようやく復興の一部にかかわることができたという気がして嬉しかったです。そのプロジェクトのリーダーから震災当日のことを伺いすることができたのも、貴重な経験でした。中でも避難所での高校生たちが小学生を学校のカーテンでくんであげて暖をとらせていたお話は胸が詰まる思いがしました。

日曜日午後は自由となったため、バスに乗り隣の釜石でミサにあずかりました。釜石教会は現在改修中。津波の被害というわけではないのですが、カリタス釜石ベースの活動と関係する改修工事の

ようでした。釜石教会には明治二十九年の津波のときにこの地で亡くなられたパリ外国宣教会の神父様を顕彰する一画がありました。月曜日はベースがお休みのため、十七日は一日フリーで午前中は町内の散策、午後は一部三陸鉄道に乗り、大船渡まで出かけました。大船渡教会は少し高い所にあり、聖堂には被害はなかったものの低い位置にあった納骨堂や駐車場は流されてしまったということでした。

十八日からは再び仮設の集会所訪問と子どもセンターでの見守り。集会所では「ほっとしてぐう」というホットケーキを作りながらお茶飲み話をするという企画や、ダーツゲームのお手伝いをしました。仮設住宅での生活も長くなり、息抜きは必要でしょう。帰りの際は、九州からのお土産を受け取って行かれる仮設住宅の皆さんはとも明るく、印象的でした。

ただそこにいること 大槌ベースのスタッフは川口助祭を含め五人。滞在中のボランティアは少ない日で三人、多い日で七人。男性は五十代、六十代ですが、女性は二十代、三十代でした。勤務の関係や活動内容からそのような構成になるのでしょうか。ボランティアがそこにいるということ、何か「役に立つ」というわけではないかもしれせん。ただ、そこにいる、ということそのものがボランティアの役割と言えるのではないのでしょうか。「何かを手伝わなければ」という気負いで参加するのではなく、「大槌の皆さんに会いに行く」という感覚でベースに滞在してよいのではないのでしょうか。より多くの方が大槌ベースを訪れたらと願わずにはいれせん。

鈴木神父のやさしい言葉

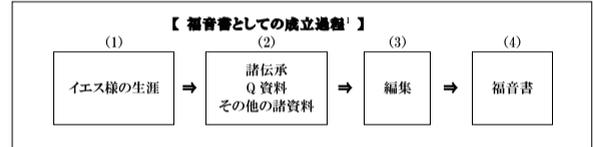
福音書を考える②



福音書を読み比べると他の福音書にも同じ内容が書かれていることがありま

えます。こうしたことから、たとえ話や奇跡物語を読む際にはその話自体の背景やその話の前後でどのような話がかかれていたのか、という点に注意が必要になります。ときとして、前後関係から離れて独立した話として理解しようとする必要もありません。

このことを踏まえると、福音書を理解するにあたって重要なことはイエス様がどのように描かれている



か、ということだと言えます。ある学者によれば「福音書における登場人物たちの行動様式、つまり著者(福音記者)が彼らに取らせる具体的な行動は、物語の中の人物に対する著者の間接的注釈なので(す)」。次回も、なぜ福音書というものが書かれたのか、という背景を考えてみたいと思います。

+KABAYAN SEKSIYON+
Ang Espiritu at Pitong mga Natatanging Biyaya

Ang Espiritu Santo, higit sa anupaman, ay ang biyaya (Jn 14.26), ang pinagmumulan ng lahat ng ginhawa at grasya; nagmumula siya sa Ama at sa Anak. Ang Espiritu ang tagapagpabanal at nagkakaloob ng mga biyaya; sa pamamagitan ng Espiritu, tumatanggap ang Simbahan ng mga karaniwang biyaya, herarkiya o para sa pamumuno, karismatiko at mga biyayang sacramental; inaanyayahan tayong lahat ng Espiritu tungo sa kabanalan at kaligtasan.

Sa tradisyong Katoliko may binabanggit tungkol sa pitong espirituwal na kaloob o biyayang mula sa Espiritu, na karaniwang tinatawag na Mga Biyaya ng Espiritu Santo. Nagproposiya si Isaias na pupuspusin ng mga biyayang ito ang Mesiyas: espiritu ng pagkakilala at pitagan kay Yawe (Is 11.13).

Nakitang ganap ang mga biyayang ito sa pagbibinyag kay Hesus; kasunod nito'y iginawad ang mga biyayang ito sa mga alagad ni Hesus sa Pentekostes. Sa pagtanggap natin ng mga biyayang ito sa ating binyag at sa kabuuan ng ating buhay, nananalig tayo na natutulungan tayo ng mga biyayang ito para maging masunurin sa mga pag-uudyok ng Espiritu ng Diyos. Ang isang Kristiyano ay isang disipulong puspos ng Espiritu ni Hesus.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

カトリック幼稚園・保育園便り④

子どもたちの成長を見守る
谷山善き牧者幼稚園 笠利聖母保育園

元気いっぱいひよこ組
谷山善き牧者幼稚園
四月、元気いっぱいの子
どもたちの笑顔とともに新
しい一年が始まりました。
今年度から、二歳児預かり
の「ひよこ組」の子どもた



ちが谷山善き牧者幼稚園の
お友だちの仲間入りです。
日に日に幼稚園での生活に
も慣れてきて、好奇心おう
盛な子どもたちは、滑り台
やブロックなど、好きなこ
とを見つけて夢中になっ
て遊んでいます。

初めて作った鯉のぼりに
大喜びの子どもたち。園庭
に元気よく泳いでいる鯉の
ぼりにも「こいのぼりさん、
バイバイ」と満面の笑顔で
手を振ってご挨拶。毎日が
かわいらしい表情と姿で溢れ
ています。
一人で靴を履けたとき、
涙が笑顔に変わったとき、
おもちゃをお友だちに貸し
てあげることができたこ
き、一つひとつが大きな喜

司教執務室便り

アジアニュースデー

八月と言えば、十五日の聖母被昇天に
ザビエル祭。今年はまだ一つある。A Y
D。つまり、アジアニュースデー。中央
協議会のホームページには次のようにな
っている。

「AYDはアジア二十八カ国のカトリッ
ク教会青年代表者が集い、ホスト国の文
化・社会と教会の福音的な取り組みに触
れながら、典礼、体験学習、ホームステ
イ、文化交流、自国紹介など、八日間共
に祈り、共に学び合いながら、信仰を生
きるアジアの仲間と出会い、アジアの青
年の連帯と信仰を深めるアジアの青年大
会です。」

- テーマ「アジアの若者よ。目覚めよ！
殉教者の栄光があたなに輝く」を次の三
点から深めていくことになっている。
- 信仰の原点を思い出すこと。
- 信仰を再発見すること。
- 現代社会の証し人として、イエスと

第23回夏期集中講座

テーマ…カトリックの信仰「復活と教会」
日時…8月18日(月)～22日(金)
午前の部 10時～12時
午後の部 19時～21時
場所…ザビエル教会一階ホール
受講料…五百円(受講回数に関係なく)
講師…竹山 昭神父
※テキストには「カトリックの信仰」(あかし書房)
と新約聖書を使用します。
申込先…教区本部「夏期集中講座係」
FAX 099(225)0440
※申込はできれば小教区ごとに(個人での申込は、
氏名、所属教会、電話番号を明記のこと)。

びです。神さまや沢山の
方々の愛情の中で、すくす
くと成長していく子どもた
ち一人ひとりを大切に、明
るく、正しく、強い心を育
んでいきながら見守ってま
います。

(主任 伊地理恵子)

奄美の自然と共に

笠利聖母保育園

南の島、ここ奄美大島か

共に歩むこと(いづれも募集チラシより)。
今年の開催地は韓国・テジョン。日本
からの参加者は百人。当初は参加者確保
が危ぶまれたが、教皇が来られると分か
つたらあつという間に埋まった。日本の
若者たちにとっても教皇がもつとも会
いたい人の一人らしいと分かって心が和ん
だ。

そんな若者たちが、昨年のワールドユ
ースデーのときと同じように、信仰を再
発見する巡礼となることを祈りたい。政
治的問題があるとしても、それだからこ
そ、同じ「信仰を生きるアジアの仲間」
として「ともに祈り」、「連帯と信仰を深
める」機会にして欲しいと思う。お互い
英語でのやり取りになると思われるが、
「現代社会の証し人として、イエスと共に
歩むこと」ができる出会いの場となるこ
とを心から祈りたい。

ちなみに、鹿児島から
の参加者は私を含めて若
者二人に司祭一人の四人。
沢山のお祈りをお願いし
たい。



ら皆さん、こんにちは。
清々しい初夏の風にふかれ
て、ここ奄美大島の地で私
どもは保育園という事業所
で職員共々神のみ旨を行お
うと、日々努力しております。

奄美大島の梅雨時期は特
別湿度が多く、汗が噴き出
し不快感を感じる毎日で
す。そのような中、子ども
たちは元気いっぱい過ごし
ています。

私どもの保育園は定員六
十人の小さい保育園です。
今年も定員を割り、とても
厳しい状態で新年度が始ま
りました。子どもたちの
お陰で元気を頂いております。
お天気の日は散歩して、

見やすく機能的に

教区のHPをリニューアル

このほど鹿児島教区のホ
ームページが機能的に生ま
れ変わった。これは教区の
インターネット関係の整備
に力を貸してくれた藤
山義和さん(玉里教会)が
手がけたもので、これまで
のものより鹿児島教区の特
色を前面に押し出したもの
に仕上がっている。
新しいホームページ

(kagoshima-catholic.jp)に
アクセスすると簡単に鹿児
島の教会の様子を映像等で
知ることができるようにな
夫がされている。また容易
に聖ザビエルとシドゥッチ神
父についての文献や解説に
たどり着けるのも嬉しい。
もちろんこれまでと同じよ
うに教区報をPDFデータ
で閲覧することもできる

会と催し (8月)

- 1日(金) レデンプートル会鹿児島準管区感謝ミサ・谷
山教会・11時
- 3日(日) 年間第十八主日
▼第二回子ども大会「聖書学校」・カリタス幼
稚園・5時
- 4日(月) ルーシン神父命日(一九九四年)
▼レヒナ神父叙階記念(一九六〇年)
- 6日(水) 主の変容
▼カトリック平和旬間・15日
- 7日(木) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)
- 10日(日) 年間第十九主日
- 15日(金) 聖母の被昇天
▼ザビエル上陸記念祭・ザビエル教会・11時50
分
- 17日(日) 年間第二十主日
- 18日(月) 第二十二回夏期集中講座・ザビエル教会一階
ホール・22日
- 19日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 23日(土) 九州青年キャンプ・出水教会・24日
- 24日(日) 年間第二十一主日
▼オリープの会・教区本部・14時
- 28日(木) 鈴木康由神父霊名(聖アウグスティヌス)
▼オーバン神父命日(一九八八年)
- 30日(土) ペルリーニ神父命日(二〇〇八年)
- 31日(日) 年間第二十二主日

祈りの意向

【ノベナ】 アジアニュースデー(3～17日)に向けて青年
のために。5日～13日

【祈祷の使徒会】 世界共通・難民

宣 教・オセアニア
日本の教会・世界平和

が、「見つけにくい」との
不満を解消して、教区報だ
けでなく様々な資料がすぐ
に見つけられるように工夫
されている。

黙想会 共にイエズスを囲んで
日時：8月2日10時～3日16時
指導：W・キッペス神父
参加費：10,000円(宿泊・食事代込)
場所：マリア山荘
申込：福沢 Tel.090(2083)9223
E-mail fuku-h@ml.satsuma.ne.jp

教皇フランシスコの使徒的勸告「福音の喜び」(以下、「勸告」と呼ぶ)を読み、福音化への新たな熱意を感じ、共感することができた。

読後の感想は、第一に教皇フランシスコが今日の世界及び教会の危機的状況をよく認識しているという点である。グローバル化による格差と排除の進行、経済優先に伴う社会の病理現象の拡大、貧しく小さくされた者への弊害の直撃、社会への福音宣教の立ち遅れ、教会の改革の不十分さ、これらのことを教皇自身がキリスト者としての責任を感じながら素直に述べているのである。

第二に、この「勸告」で述べられていることは、単純明快で当たり前のことであり、別段新しい考えを訴えているわけではないことだ。第二バチカン公会議以降、教会は改革を進めて、キリストの福音を宣べ伝える使命を果たそうと努めてきた。しかし、現実を見ると福音化が進んでいない。五十年後の今日、再度光を当てようとしているのが、この「勸告」ではないだろうか。

第三に、この「勸告」から鹿児島教区も学ぶことが多く、今後の実践に活かすことができるのではないかと考えている。教皇は「脱中央集権」を訴えている。(「勸告」32)教区の使命を果たすために必要なことは何だろうか。信徒一人ひとりが考えて行動することが求められる。福音化が進まない理由として、信者の高齢化、若者の教会離れ、司祭の不足などが考えられる。だが、それ以上に根本的問題がないだろうか。そのことを考えるヒントを

「勸告」が与えていると思

「勸告」は別段真新しいことを言っているわけではない。引用された第二バチカン公会議文書「現代世界憲章」(「教会憲章」、教皇パウロ六世使徒的勸告「福音宣教」)などでも分かるが、公会議以降の教会の教えを再確認したものと言える。

だが、ここには公会議の精神を具体的に実践しようとする教皇の強い意志が伺われる。第二バチカン公会議は「第二の宗教改革」とも呼ばれ、カトリック教会が大きく転換しようとしたのであるが、現実には挫折したようにも思える。

ともに喜びをもって生きよう

「使徒的勸告「福音の喜び」を読んで

紫原教会 山下和実

ある。「使徒的勸告」は「回勅」に次ぐ重要な公文書である。序文と五章(全二八八項目)から構成され、現代世界における福音の告知について、教皇フランシスコは司教に対してだけでなく、すべて信徒に呼びかけている。この勸告の目的は、「喜びを特徴とする福音宣教の新しい旅の段階へとキリスト者を招き、今後数年の教会の歩みの道筋を示す」ことだ。ここでは、七つの提言がなされている。(日本語訳の下訳を準備したホアン・マシア神父の分類を参考とする)

①福音の喜びと教会の改革(序文・第一章)
②世界の現状を弁え、宣教師の試練を乗り越えよう

③旅する教会こそ、福音宣教の主人公(第三章)
④福音の告知は、み言葉を中心にしよう(第三章)
⑤福音に基づいて貧しい人を優先しよう(第四章)
⑥平和と正義の建設及び社会の対話(第四章)
⑦復活者の聖霊に動機づけられる宣教師になろう(五章)

洗礼を受けた私たちは、イエスの呼びかけにこたえるように招かれているのであるが、「自分にとって快適な場所から出て行って、福音の光を必要としている隅に追いやられたすべての人に、それを届ける勇氣をもつよう招かれている」(20)。福音化とは、自分たちの居心地をよくするためではなく、社会の底辺に光を当てることで、すべての人がよりよく生きることだろうと私は考えている。

教皇は「内向性」より「開かれたもの」「出向いて行く」姿勢を重視している(26)。社会と距離をおいた閉ざされた教会ではなく、社会に開かれた宣教共同体が本来の教会の姿であり、

聖書を読めば明らかです(180)と述べている。これまでも、教会は社会問題に消極的であった。信仰は個人の魂の救済であり、社会問題は信仰と別次元という理解に基づいていたように思う。しかし、そういう理解は第二バチカン公会議以降、転換してきている。現に、日本カトリック司教団は国家の政治政策に反対して「原発廃止」というメッセージを出し(二〇一一年十一月)、最近では、社会司教委員会内の「日本カトリック正義と平和協議会」が「集団的自衛権の行使容認の閣議決定に反対する」文書を安倍内閣総理大臣に提出した(二〇一四年六月二十七日)。福音に反する政権の暴走に警告を与えられることは、キリスト者の預言者の役割であり、福音の真髄に適うことである。

教皇は語る。「司牧者には、科学の貢献を受け入れつつ、人間の生活に作用するすべてのことがらについて意見を表明する権利があります。もはや、宗教は私的領域に限定されるべきもので、天国に行くために靈魂を整えるためだけにありと主張することはできません」(182)。「教会の社会に対する考えは、まず何よりも前向きであり、提言を含

文芸

俳句

鹿兒島純心 川上 和
白南風や黙す災地に夏の幸
星近し心も合唱天の川
鹿兒島市 徳永ノブ子
颯風の去つて雲間に主の恵み
雨かぶる向日葵右に左向き
国分教会 政ノブ子
早苗田のみどり目に染む朝のミサ
短冊に未来の献堂願い書く

短歌

鴨池教会 前田 儀子
何おもひゴッホは鮮やかな点描にミレー
の種まく人を模写せし
鹿兒島純心 川上 和
ザビエルのさつまに詩きし証し種今年も
咲くらむ祇園之洲に
出水教会 遠竹 睦郎
安らかに兄は眠りて天国に神に召されて
逝き給ふなり
大笠利 稲 牛憲
降りて行く夜の峠路に捨て猫の人間不信
の青き目が光る